

【工学部建築学科】

卒業認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った建築学分野の技術者・設計者・研究者等の養成を目標とし、以下の知識、能力を身に付け、建築学科の所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 建築学分野に必要な基礎学力
2. 建築学分野における幅広い視野と確かな専門知識
3. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、建築学分野に限らず横断的にものごとを俯瞰する能力
4. 修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力
5. 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的な姿勢で判断し、行動する能力
6. 建築学分野の課題に対して、探究の成果を表現するプレゼンテーション能力
7. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 建学の精神と、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」という教育研究理念に基づいて、建築学を通して社会に貢献できる人材の育成を目標に、幅広い基礎知識と高度な専門知識の基盤を備えるための学士（工学）の教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、建築学分野の基盤をなす「基礎科目」、建築学分野の専門知識、技能を習得し、技術者・設計者・研究者等に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 建築学分野で活躍するためのキャリア教育や、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、倫理観を養う内容を含む学習機会を提供する。
5. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰する能力、判断力・行動力を養う授業科目を効果的に配置する。
6. 英語教育においては、状況に応じた柔軟なクラス編成を取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 「基礎科目」では、初年次より「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。
8. 「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで専門分野の知識と技術を高め、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、建築学分野の専門家としての基盤を醸成する。
9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究・卒業制作を実施し、課題の分析、調査、問題解決の手段を学ぶことで、建築及びその関連分野の自立した技術者・設計者として問題発見・解決能力の育成を図る。
10. 自身の専門分野を超えて幅広く関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科の科目の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

[夜間主社会人コース]

1. 建学の精神と、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」という教育研究理念に基づいて、建築学を通して社会に貢献できる人材の育成を目標に、幅広い基礎知識と高度な専門知識の基盤を備えるための学士（工学）の教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持しつつ、社会人学生の多様な就学形態に柔軟に対応できる教育課程を実践する。
3. 社会人学生の限られた就学時間で基礎および専門知識を効果的に習得させるため、夜間18時以降と土曜日に授業科目を配し、2年次編入後3年間で卒業が可能な教育課程を編成する。
4. 一般的素養を深めるための「一般教養科目」、建築学分野の基盤をなす「基礎科目」、建築学分野の専門知識、技能を習得し、技術者・設計者・研究者等に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
5. 建築学分野で活躍するための実務教育をはじめとして、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、倫理観を養う内容を含む学習機会を提供する。
6. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰する能力、判断力・行動力を養う授業科目を配置する。
7. 「基礎科目」では、2年次に「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。

- 「専門科目」では、講義の他に、演習等の授業科目を効果的に組み合わせることで専門分野の知識と技術を高め、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、建築学分野の専門家としての基盤を醸成する。
- 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究・卒業制作を実施し、課題の分析、調査、問題解決の手段を学ぶことで、建築及びその関連分野の自立した技術者・設計者として問題発見・解決能力の育成を図る。
- 自身の専門分野を超えて幅広く関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科の科目の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、

- 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を備え、建築計画・歴史・意匠、建築環境・設備、建築構造・材料、建築数理・情報などの建築学分野の学習に必要な学力を持ち、建築学全般の広範な知識をバランスよく身につけようとする人
- 建築の計画や建設のみならず、建築を通じた都市や地球環境の保全にも関心を持ち、社会に貢献できる技術者・設計者になろうとする意欲のある人
- 将来広く国内外で国際的な視野を持って活躍するための基礎的な素養を身に付けている人
- 社会に対する良識と責任意識を持ち、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験（数学、英語、物理）の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と大学入学共通テスト（国語、外国語）の得点を用いて選抜する。

(グローバル方式入学試験)

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、物理）と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

(学校推薦型選抜（指定校制）)

高等学校段階までの十分な基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、建築学に高い関心を持って自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(帰国子女入学者選抜、外国人留学生入学試験)

海外で身に付けた知識と能力を持ち、建築学に高い関心を持って自ら学ぶ意欲のある人を、大学入学共通テストの成績、書類審査、資格・検定試験の成績、面接等により選抜する。

(学校推薦型選抜（公募制）)

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、建築学に高い関心を持って自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問等により選抜する。

(社会人特別選抜編入学試験 夜間主社会人コース)

社会人として得た多くの経験を有し、それに基づく思考力、判断力、表現力を持ち、建築学に高い関心を持って自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接等により選抜する。